国際交流事後活動ニュース

MACROCOSM

◎カラー特集　日韓青年親善交流（招へい）
日中青年親善交流（招へい）

マクロコズム 2001.5

vol. 40

㈶青少年国際交流推進センター

日本韓国青年親善交流（招へい）～2000.11.1～11.15～

本事業は、昭和59年の日本・韓国共同声明及び昭和60年の日韓国交正常化20周年をふまえ、両国の共同事業として昭和62年から開始されました。昨年で、15回を数え40名ずつの相互交流として行われています。韓国代表青年は、15日の滞在期間に東京において表敬や課題別視察を行うとともに2県1市を訪問しました。日本代表青年は、9月から10月に掛けて韓国を訪問しています。

▲ 十和田湖畔での楽しい一時

地方旅行

青森県

大阪市

◀ 華やかな民族衣装で母国の歌と踊りを披露する韓国青年

栃木県

▼ 宇都宮南高校へ訪問し授業見学

▲ 新宿区立花園小学校

小学校訪問

新宿区立四谷第四小学校 ▲

◀ 評価会で日本滞在を振り返る

世界で活躍するために、身につけておきたい国際マナー（PART 1）

～日本のマナーの歴史～

講　師：司　　良介氏

2001年3月25日
（講演要旨）

マナーといいますのは、本来は家庭でのことが大半でして、あとは外に出て行った場合の決め事のようなことがほんの少しあるだけなのです。ただ、私が今いただいている1時間の範囲内でみんなお話しするのは無理なことですので、それを集約してマナーというものをどういう風に捉えたらいいかということを中心にお話しします。その前に、まず日本のマナーの歴史についてお話しさせていただきます。

（聖徳太子の十七条憲法）

西暦でいいますと500年代、西ローマ帝国が崩壊し、東ローマ帝国が出来た頃、日本もようやく天皇を中心とした政治体制が出来つつあった。飛鳥時代と言われる頃に聖徳太子が現れ、西暦603年に冠位十二階を定めた。これは、宮廷内、天皇

主な内容

世界で活躍するために、
　身につけておきたい国際マナー…5～10
自転車で世界一周
　叶えられた夢 ……11～15
青春の思い出、第5回「青年の船」…15～16
インフォメーション……17～20
　全国大会のお知らせ
　平成13年度ボランティア募集
　マレイシアへのエコツアー
　リフレッシュクルーズについて

〈表紙の説明〉

第13回「世界青年の船」より

を中心とした社会がまとまりつつあった中で、それ以前は、今でいう官僚の序列がほとんど古来の豪族の家柄で決まっていた。これではいけないということで、本人の能力とか功績を評価して位を決めていった。それが冠位十二階です。その政治改革の第二段として604年、憲法十七条を発布した。わが国最初の成文法です。第一条の「和をもって尊しとなす」以下、十七条までずっと読んでみますと、書いてあることの大半はマナーのことなのです。要するに道徳についての規律が書かれている。これは私の勝手な解釈ですが、これが日本で最初のマナーの本だと位置づけているのです。それぐらいに日本では古代のころ、政治の基盤としてマナーが大切だったということです。これは中国でも同じことで、紀元前ですけれども、孔子などが随分苦労して一生懸命普及を図った。マナーというものは、一つの国を形成していくのに絶対に欠かせない要素だったのです。

（平安時代の公家有職）

聖徳太子の亡き後、白鳳、奈良と時代は下っていきます。途中では大化の改新などもあったりして、律令国家をまとめあげていくためのいろいろな法令がどんどん出され、改定もされています。そして794年、第50代桓武天皇の平安遷都以降400年間、平安時代、貴族社会が続く。日本の歴史の中では本当に長い期間、貴族社会の繁栄が続いた。想像を絶するほど凄かったのだろうと思います。貴族社会を統合するためにいろいろな生活のマナーが作られてうるさく要求された。守らないとあちらこちらが、がたがたしてしまうのでしょう。とにかく、箸の上げ下ろしからと言いますけれども、全てのことに関して詳しいルール、体系的なものを作りました。その体系の名前を「公家有職」といいます。「こうけゆうそく」と読みます。こういうものを作って貴族政治体制を無事に運用していった。この「有職」というのは非常に難しいというか、煩雑な取り決めでして、要するに、1日24時間の中での一切の身の処し方を階級制にのっとって、これを守れば良いという取り決めだった。これを全部まとめて伝えられる人というのは、そのまま職業として成り立った。特殊な能力がないと把握しきれないほど面倒なものだった。

（鎌倉時代の武家故実）

そういうことがあって、平穏に過ごしていたけれども、しだいに、いわゆる武士に実権が移っていく。結局1182年、後白河法皇が亡くなった頃、関東の坂東武者の力を結集して政治の実権を握り、その総大将源頼朝が鎌倉に幕府を開いた。平安の貴族社会は、政治の実権を幕府に取られてしまった。ところが源頼朝の子供二人が二代と三代の将軍を継ぎ、三代目で頼朝の血筋が絶えてしまった。そして北条家の人たちが政治の実権を握ったが、将軍にはなりませんでした。将軍は京都から迎え、自分達は執権という役職を作り、事実上の支配者になりました。

坂東武者というのは、箱根の足柄峠、群馬の碓井峠、その坂の東だから坂東、そこにあった関所の東側だから関東ともいう。そこが武士、戦う人たちの多い場所だった。当時は侍と言いました。侍というのは「はべる」ということで、武士は貴族社会のガードマンです。ですから政治の実権は

持っているものの、非常に低く見られていた。低い扱いを受けることで武士達に不満があった。そしてこのようなことでは困るということで、自分達でマナーの体系を作ろうと思い立った。ところが過去の資料をたくさん持っていないので、体系づけるために学者を集めたり、自分達の考え方を足していったりしたけれども、簡単には作れないものですから、「有職」を取り入れていった。有職を取り入れながら武家故実の体系を整え始めた。鎌倉時代に武家故実の体系が芽生えたということになります。

戦いを専業とするような人たちにとっては、有職の中に定められているような京都風のみやびなマナーはぴんとこない。そこで武家の礼法の体系を作ろうということから始まった。鎌倉幕府は、四代以降の将軍は、四代、五代が九条家から来て、六、七、八、九代までは皇族をよんでいるのです。そういうことで、鎌倉の武家故実というのは、武家と貴族をミックスしたようなマナーがあったのではないかと思います。

（室町時代の小笠原流礼法）

鎌倉幕府は九代で終わり、鎌倉幕府の一族の足利尊氏が、1336年に今度は京都に幕府を構えた。時代区分としては、室町時代と言いますが、初めの約30年間は歴史の区分では南北朝時代になります。第三代将軍足利義満のときに京都の室町に花の御所という壮麗な邸宅を構えた。そのことから室町幕府と呼ばれるようになった。京都という狭い場所に天皇の御所と幕府が同居することになって問題が生じた。幕府が関東の鎌倉にあったときは、京都と物理的にも距離があったから、貴族と武士の軋轢は少なかった。ところが京都の中に幕府が置かれたものですから、全国から戦う人たちが京都へ集まって来る。この連中は喧嘩をするのが仕事みたいな人たちですから乱暴狼藉はあたりまえ。京都の街中では毎日のように事件が起きて、幕府も相当手を焼いた。政治的な力が足りなかったという事情もあるのでしょうが、それ以上に下剋上という風潮が台頭していた。それに対して、幕府の支配体制をしっかりさせるため、あらためて武家故実の補強を急がなければならなくなった。そのために足利義満が、幕府内の小笠原家、伊勢家の両家に故実体系を整えよという命令を出した。そのときに出来上がったのが礼法、つまり小笠原流礼法と伊勢流礼法です。伊勢の方はその後徐々に武家社会が衰退していくのと同時に絶えていったのですが、小笠原流は現在でも残っています。

今私たちが日本文化とか伝統文化と呼んでいるものの大半は、この室町時代に形を整えているのです。歌舞伎にせよ、茶の湯にせよ、生け花にせよ、ほとんどのものがそうです。日本建築というのもそうです。室町時代の書院造りというのが基本になって今でもそれを日本建築と呼んでいるくらい、室町時代というのは日本人のふるさとなのです。そこで作られた小笠原流礼法はそれ以後ずっと続きました。武家支配の終わった江戸時代の終わりから明治、大正、昭和と来て、現在でもまだ礼法のどの部分にも全部小笠原流が下敷きなっているというぐらい日本の礼法の基礎にある礼法です。時代が変わるにつれ運用の仕方は変わりますが、いずれにせよこれが室町時代の支配階級の使っていた武家故実というものです。故実というのは字のとおりで古い事実、前例というような意味も

ありますが、武士社会の典範ということになります。そして貴族の「公家有職」と「武家故実」、この2つを足したのが「有職故実」です。

（江戸時代の儒教）

次に、戦国時代を飛び越して、1603年の徳川幕府へと移ります。その途中の安土桃山時代は信長と秀吉を足してわずか30年しかありません。そのころは礼法も何もなかった。そして徳川が天下を握って、京都から離れた江戸に幕府を開いた。江戸時代になって庶民文化、町民の財力が非常に増大し、必ずしも武士達が完全に支配しきれなくなって、どこかで抑えなければならない。ここでまたマナーを必要として、中国の孔子の論語など、つまり儒教を取り入れて、寺子屋を通して一般庶民の教育をした。論語の大半は完全なマナーです。当時5歳、6歳という子供たちが論語を諳んじさせられたというのですからすごいですね。そういうことがあったために徳川幕府は庶民文化が台頭しても何とか抑えることができて大きな乱れというものはなかった。地方分権的な各大名、藩を置いてそれぞれの人たちにその藩の支配権を任せる封建制度が確立していた。幕末には薩長連合だとかいろいろ出来て、最終的には明治維新が起きますが、いずれにしても徳川時代の前半は大変見事な政治形態だったと言えるかもしれません。

（明治の和洋折衷）

そして明治維新によって、西暦1868年、明治政府が樹立されますが、ここで非常に問題が起きてしまった。徳川幕府までは、支配体制が決まっていたので、マナーというようなものは、武家故実1本で十分に足りた。庶民が台頭したとしても、それは論語などによって押さえつけていた。上から圧力をかけられたからよかった。しかも、江戸時代には四民、士農工商という身分制度を発達させた。それ以前の身分制度は、全部いわゆる支配者の中での階級だった。それが徳川幕府になって、一般人も巻き込んで士農工商という階級制度を敷いていた。明治政府は、これを否定して、四民平等を謳った。そういう中で新しい体系を作らなければならない、近代国家としての体裁も整えなければいけない。ここで明治政府はだいぶ慌てたのです。当時東南アジアのほぼ全域でイギリス、オランダ、フランス、スペインなど西欧列強による植民地化が進んでいた。ぼやぼやしていれば日本も植民地になりかねないということで、明治政府は焦った。もう古いことを言っていられなくなって何でもいいから西洋の文明や文化を取り入れて、富国強兵、強くなって国を守らなければならない。廃仏棄釈などと言って、本来は日本にずっとあるべき大切な文化を捨て去った。そして西洋文化を取り入れたミックス文化、和洋折衷の中で新しいマナーを作らなければならなかった。

明治5年に学校制度が敷かれました。明治の初めの頃は小学校4年まで、その後小学校6年までの義務教育制度ができた。けれども、やはりどうもいま一つマナーについてぴりっとしないと、支配体制がうまくいかない。そこで修身という科目を設け、その冒頭に教育勅語を載せた。よく読んでみると結構マナーの本なのです。今でも当然役に立つような文言がたくさん入っている。そういうことをしながら明治の近代国家の体制を固めていこうとしていたのです。

そして大正、昭和へと移ってまいります。その間にもいろいろ試行錯誤が行なわれ、国の体裁もある程度自由な近代国家になりました。学者も新しい時代の新しいマナーの研究を進めて、本も何百冊も出ていたようです。それらの本をよく読んでみると、ほとんど小笠原流礼法を下敷きに、思いつきをちょっと乗せたようなものが大半のようです。イギリスの礼法書も翻訳されて出ていたけれども、直訳に近いのと、翻訳した人がイギリスの生活文化を知らないで訳したために意味が全然通じないで、あまり役に立ちませんでした。

（昭和の国民礼法）

そのようなことを繰り返しながら昭和に入り、軍人が非常に力を得て、政治的な権力も握り始め、一般の国民は生活しづらい思いをした。そういう中でも、新しいマナーの体系を作らなければいけないという努力だけはしておりました。昭和13年に文部省が作法教授要綱調査委員会を作りました。宮内省、文部省、外務省、陸軍省、海軍省から30名の委員を選任し、その答申を待って、昭和16年4月に新しいマナー体系「作法要綱」というものを作って、文部大臣が地方長官に通達した。ところで、法律は違反をすれば罰則があるけれども、マナーは違反をしても罰則がないという違いがあるのですけれど、時としてマナーに罰則が出てくるのは、権力がこれに介在するときです。その当時の文部省の考え方は、できれば罰則を設けたかったようです。マナーに違反をした場合には罰則を設ける、それを教育の中に取り込みたいということです。通常これを「国民礼法」と言いました。そして文部省の出している国定教科書にきちんとそれが載るはずだったけれども、その年の12月8日に日本は真珠湾に攻撃をしかけ、戦争に突入した。マナーどころの騒ぎではなくなって、国民礼法は幻の礼法で終わってしまった。こ

れの全文は、私はこれだけはっきりした証拠があるから手に入るだろうと思って探したが、ないのです。戦争に負け、アメリカ軍が進駐して来るというのでやたら書類を燃やしてしまったときに一緒に燃やしてしまったのではないかと言われています。国会図書館にあるかもしれないという話だけは聞いていますが。いずれにしても、戦時中の国民礼法というのは幻の礼法で終わってしまった。ここまでが日本の礼法の流れです。

（ここまでのまとめ）

まとめてみますと、国が形を整える頃から常にマナーというものは国を治めるための非常に重要な存在だった。国というものは、一つの集団社会ですから、これを円滑に運用するために絶対に必要なものであるということは、それぞれの時代にはっきりと認識されていた。そして貴族社会では、それを体系としてまとめて公家有職といい、武家社会では、故実が体系化されて武家礼法となった。皆さんが学ばれる場合に、礼法は女性のものと思われている節がありますけれど、礼法というものはまったく男性のものだったのです。男性だけにしかなかったのです。徳川時代には、少しやわらかくなって儒教が入って来ました。そして明治政府は和洋折衷の中でいろいろなマナーの再編を図って、それが昭和まで来て国民礼法という形で何とかしようとしたが失敗しました。

（7月号へ続く）

平成13年度青少年国際交流を考える集い（ブロック大会）開催日程

ブロック	開催府県	開催日	ブロック構成都道府県
北海道・東北	青森県	10月13日～14日	北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島
関東	群馬県	12月1日～2日	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨
北信越	石川県	10月27日～28日	新潟・長野・富山・石川・福井
中部	静岡県	11月3日～4日	静岡・愛知・岐阜・三重
近畿	京都府	平成14年 1月26日～27日	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山
中国	広島県	平成14年 1月19日～20日	鳥取・島根・岡山・広島・山口
四国	愛媛県	平成14年 1月26日～27日	徳島・香川・愛媛・高知
九州	宮崎県	9月22日～23日	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

叶えられた夢

第18回「東南アジア青年の船」
坂本　達

走りながら、「果たして終わりが来るのだろうか…」と絶望的に長く思うこともあったが、終わってしまうとすべて一瞬のことにしか思えない。どんなに感激したこともしんどかったことも、強烈なことも優しいことも、一つ残らず思い出に変わってしまった。残っているのは自分だけだ。そう思うと、どんな状況にあろうとも一瞬一瞬に感謝し、前に向かって生きるしかないんだなあ、と実感する。

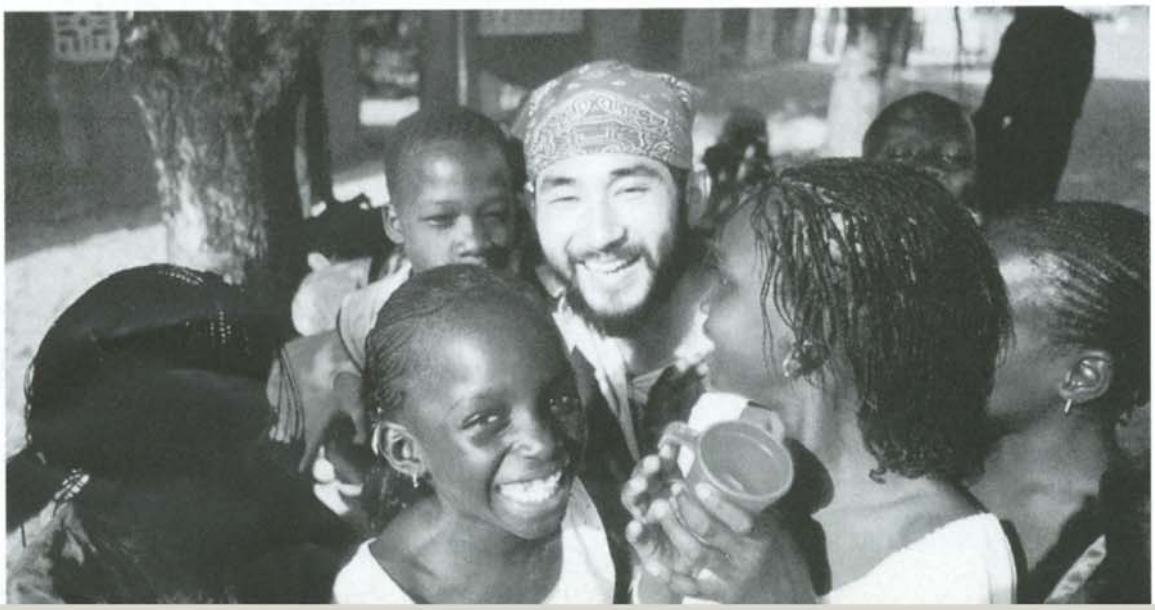
1999年12月28日、「自転車世界一周」という長年の夢が実現し、無事帰国した。1995年9月から4年3か月にわたり、勤務先の会社（ミキハウス）がバックアップについてくれたのだった。

〈ものごとが一直線に動く時〉

1991年の第18回「東南アジア青年の船」に参加した翌年、僕はミキハウスという子供服を中心とした商品の企画・製造・販売をする大阪の会社に縁があって入社した。社員には、年2回の業務レポートの提出が義務づけられていた。自分の所属する部署の改良点や仕事上の希望に関するレポートだ。僕はその用紙に勝手に欄を設けて「自分の夢」について3年以上に渡り何度も書き続けた。

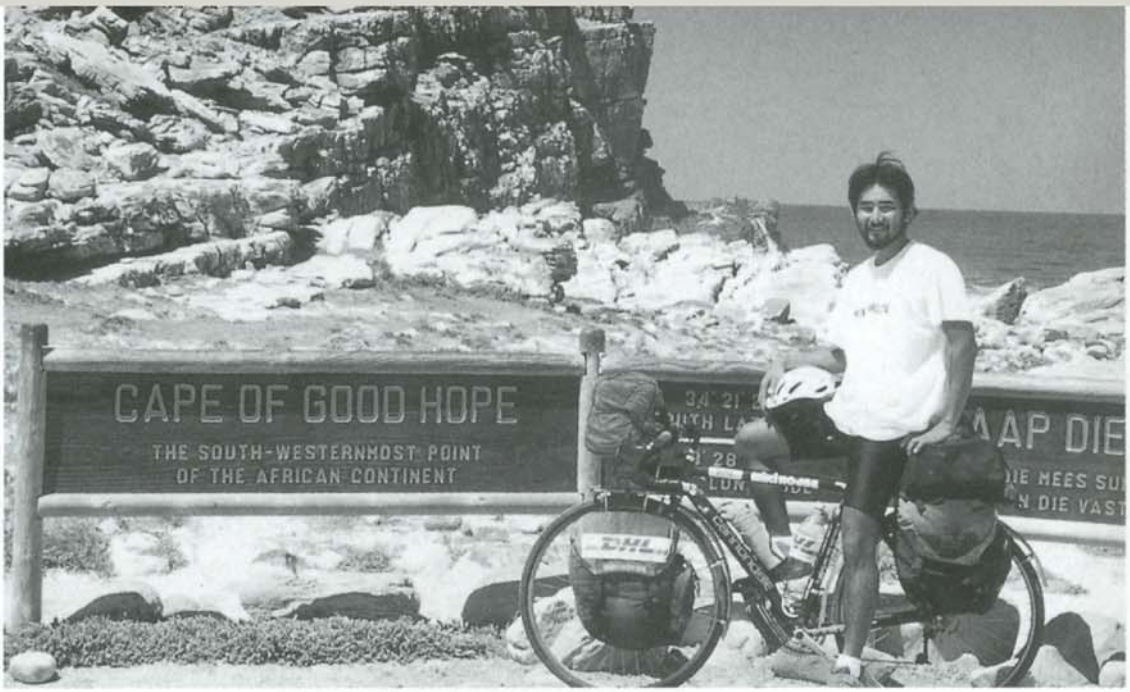
父親の仕事の関係で子供時代を過ごしたフランスで見た、世界最大の自転車レース「ツール・ド・フランス」に魅せられ、抱き続けてきた「世界を走りたい」という僕の夢。

入社以来、週末のロードレースに参加して体力を作り、図書館では世界の地形、気候、道路状況、政治情勢を調べ、海外からも資料を取り寄せ目的



地を線でつないでいた。思ったよりうまいルートが組めるのが楽しかった。

入社3年目を過ぎた頃から、「どうしても夢を実現したい」という気持ちが収まらなくなり、ついに「30歳までに、世界を自分の六感を使って見ておきたい。そのためには会社を辞める覚悟もあります…」と書いた。ある日社長に、「巡礼の旅に出るんやってな」というような事を言われた。最初何の事かわからなかったが、それがGOサインだったのだ。それからしばらくは、ゆっくり歩くことができず、つい小走りになってしまったり、目に入るものすべてがキラキラと輝いて仕方なかった。あの時の驚きと感動は一生忘れない。



会社から、ロゴの入ったシャツを着て走れとか宣伝しろとかの義務は一切無かった。僕が夢をできるだけ純粋な形で叶えられるように、との配慮だった。安全確認のため、月一度のレポートと写真の提出が唯一の条件だった。

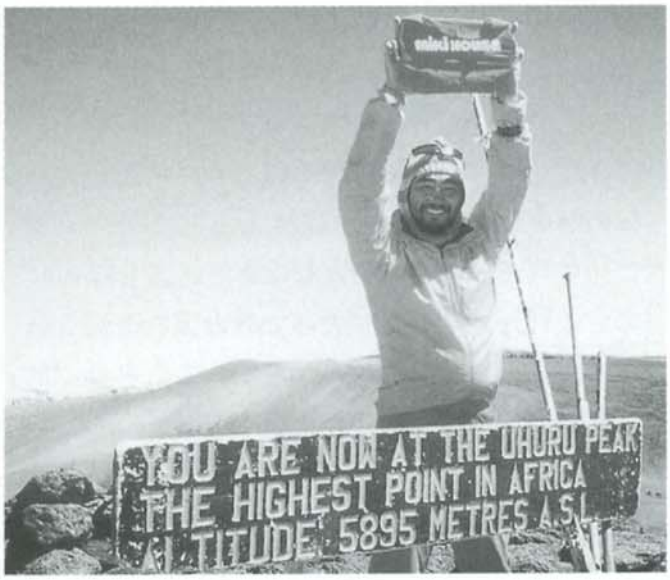
資金的なバックアップが保証されたものの、構想にあった協賛企業回りも一人でやった。日常業務をしながらなので、企画書作りでほとんど眠れない事もあった。不況の中、一割でも良い返事がもらえればいい、と思っていたが予想はいい方に外れた。「お話を伺いましょう。来社してください」「わかりました。商品を用意しておきます」まで、極めて反応が良かったのだ。見ず知らずの人の間で夢が広がっていくのが嬉しかった。結局30社近くもの協賛が受けられることが決まった。

父親は駐在していた商社の海外支店に連絡をとってくれ、補給物資受取りの拠点を世界中に確保してくれた。カメラマンの兄が写真のアドバイスをしてくれた。会社は出発前の1か月を準備期間として自由に使わせてくれた。出発地点となるロンドンでは、家を解放してくれる家族が出てきてくれた…。すべてが一直線に、目的に向かって力強く動いている感動を味わっていた。心配した社内での妬みもなく、あまり言葉を交わした事のなかった先輩社員からお餞別を貰ったり、盛大な壮行会を開いてもらったり、会社から温かく送り出してもらえたのにもムチャクチャ感動した。

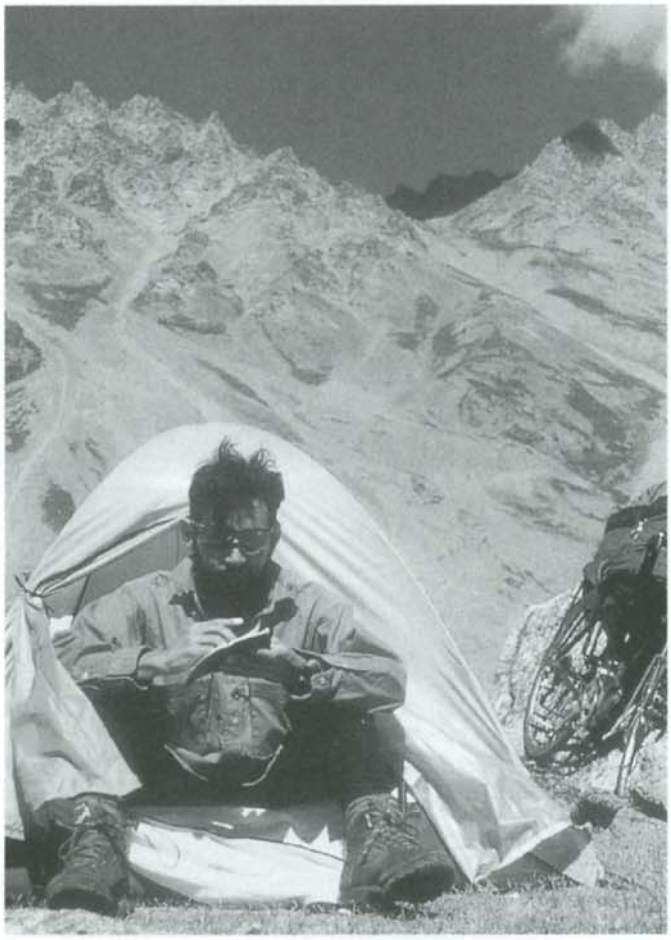
出発直前、ミキハウスの社長が同僚に言ってくれていた言葉を聞いた。「タツを応援してやりたいんや」。僕のすることは、手に入れたこの奇跡のようなチャンスを生かすべく、しっかりと大地に足をつけて前に進むだけだった。

〈自転車で出会う風景〉

世界を回ろうと思ったのは、「地球上にはどんな人がいて、どんなものを食べ、どんなところに暮らし、どんなことを考えているのだろうか」ということが知りたかったからだ。自転車でアフリカの村を訪ねると、自力で来ていることが分かるから、村人は「オ、こいつちょっと違うな」と見てくれる。地図に載っていない村の名前や、いつも食べている土地の食べ物のことを知っているから、親しみを持ってくれる。通りすがり、「こんにちは！」と言えば「やあ、どこからきたの？」とコミュニケーションのとることができた。



4年3か月で43か国、約5万5千キロ走行。予定の60か国7万キロには及ばなかったが、走るのが目的ではなかったのでこの結果に満足している。



アフリカのギニアではマラリアと赤痢を併発し、死線をさまよったが現地の医者に助けられた。イランの砂漠では54℃、冬のチベットではマイナス30℃を経験した。アンデス山中では高山病に倒れ、道端にうずくまっていたところを通りがかった州知事に助けられた。冬のアラスカでは膝を痛め、1か月以上自転車に乗れずリハビリに専念した。日本語が恋しくてKDDの録音されたメッセージを聞いて癒されたこともあった。暑さでロウソクがまっすぐ立たない夜も何度か数えた。ベストをイメージしながらも最悪の事態に備える大切さを、仲間の死をもって痛感した。一方、僕の身に何が降りかかろうとも、夜になると日が沈み、朝がくると日が昇るといった自然の偉大な営みだけは変わらないのに感動し、励まされていた。

野性の勘が発達し、パタゴニアの荒野では水のありかが匂いでわかった。真っ暗闇でモノのありかが一発で探り当てられた。危険を予知することができた。ヒマラヤでは峠を越える度に万物との一体感があり、一人でも一人ではないという気持ちに包まれた。風と友達になると、逆風も味方についてくれた。月の満ち欠けで時の流れを知るほうが、時計よりも信頼できた。すべてを自分で解決しなくてはならなかったのは事実だが、同時に、自分で何かやっているというよりは、「大いなる意思」のようなものに動かされている気分になったものだ。

出会う人に、金がなかったり政治的な理由から「俺達は君みたいに自由に旅をすることができない。これからも俺達の代わりに世界を見てきてくれ。そして俺達のことを伝えてくれ」と言われることがあった。「旅をする」という概念そのものを持たない人もいた。「何を売っているんだ」と僕のパニアバッグを指して聞く。「いや、旅をしているんだ」「じゃあ、何を買いに行くんだ」…毎日を生きるために精一杯の人にとって、ただ「見聞を広めるために移動する」ということは理解できないのだった。

帰国して1年○か月が過ぎたが、仕事の合間に、世界中の人に助けられ、学ばせてもらった大切なメッセージを伝える講演活動を全国の学校や団体で行っている。

（続く…次回は具体的なエピソードに加え、帰国してから変わったことや、今後のことを書きます。今回は「旅のルート紹介」がないので、次回、世界地図を使って行いたいと思います。また旅のデータ的な資料は、私のHPの中にあります。連載コラムを開いて、その上の「旅のデータ」という所をクリックしてください。参考になるかもしれません）

●本の紹介

著書「やった。」

～4年3ヶ月も有給休暇をもらって　世界一周5万5000キロを　自転車で走ってきちゃった男～

写真・文／坂本　達　出版社：三起商行㈱

四六版240ページ　　本体価格　1,700円

- 「夢の実現」と「一人なのに一人じゃない」そう思えた瞬間を、約250枚の美しいカラー写真とともに綴ったフォトエッセイです。
- この本の印税はすべて、旅で巡り合い助けてくださった方々にお返しいたします。

◎本に関するお問合せ

ミキハウス出版部

〒150-8305 東京都渋谷区神宮前1－8－2

Tel　03－3403－2377

Fax　03－3475－4467

e-mail : pub@mikihouse.co.jp

青春の思い出、第5回「青年の船」

第5回「青年の船」20班

高谷　敏

ふと青春時代を思い出すことがある。もう年かな？と思いつつ、一方ではまだまだ現役だという意識が頭を持ち上げてくる。不思議な年齢だ。

あれから、早くも30年が過ぎた。忘れもしない第5回「青年の船」。東南アジアを訪問しながら、各国の青年と交流を深め、自分自身をみつめた2か月。私にとっての国際交流の第一歩であった。国際見本市船を改造したさくら丸は最高だった。蚕棚のように、鉄パイプとベニア板でくぎられたベッド。泡のたたない海水の風呂。ビニール袋を片手にのぞんだ講義室。数え挙げればきりがない。期待と少し不安な気持ちを持ちながら出港した晴海埠頭。そして無事神戸港に着岸した時のあの感動。楽しい楽しい青春の思い出だ。

横浜の篠崎さん元気？沖縄の川満さんどうしていますか？苦楽を共有した仲間のことが気になる。

「お〜い、みんな、30年ぶりに神戸で再会しよう!!」

顔をあわせても、名前がわからないかもしれない。名前は覚えていても顔が浮かばないかもしれない。しかしそんなことより、2001年、新世紀の新しい思い出づくりにトライ＆トライ。

第5回「青年の船」（昭和46年）の30周年記念同窓会を神戸で開催するように、25周年横浜大会で決定されたと聞き、兵庫県在住の5回生で昨年から集まって準備を進めています。今から日程を確保し、各班で連絡をとりあって、多数ご参加ください。どうぞお楽しみに！

日　　時　8月25日（土）〜26日（日）
場　　所　明石海峡大橋が眼下にみえる
　　神戸舞子ヒラ（解団式の場所）
会　　費　20,000円（ホテル宿泊、懇親会費等）
参加申し込み
　　郵便振込みで、下記あてお振込みください。6月30日までにお願いします。申し込みいただいた方には、後日案内パンフを送付します。
口座・通帳記号：14300
　　口座番号：63892301
　　加入者名：松本和代
住　　所：兵庫県小野市新部町645−1
問い合わせ：
　　松本和代（旧姓 田中）
　　TEL：0794−66−4769
　　高谷　敏（自宅）0794−32−5941
　　（職場）0794−27−9177

第5回「青年の船」のメンバー
神戸に全員集合!!

青少年国際交流事業事後活動推進大会
日本青年国際交流機構第17回全国大会
第8回青少年国際交流全国フォーラム

「おいでませ！元気のくに、山口へ
～みなちごーちょって、みなええほ！」

1．**期　　日**　平成１３年８月４日（土）～５日（日）

2．**会　　場**　（財）山口県婦人教育文化会館（カリエンテ山口）
〒753－0056　山口市湯田温泉 5-1-1　Tel：083-922-2792　Fax：083-932-6417

3．**参 加 費**　一般 15,000 円　非宿泊 8,000 円　学生 10,000 円

4．**申込方法**　会員の方は、同封の振込み用紙に必要事項を記入の上、参加費をお振込み下さい。会員以外の方は、ハガキ、FAX 又は E-mail に氏名・連絡先・参加費支払い日・支払い方法を記入の上、下記宛先までお申込みください。どなたでも参加できます。
【申込締切日】6 月 30 日（土）

5．**振込口座**　郵便振替口座番号：01320－3－28946　口座名：山口県青年国際交流機構

6．**問合せ先**　〒753-0064　山口市神田町 1－80
（財）防長青年館内　IYEO 全国大会実行委員会事務局　吉野　環
Tel：083-921-8771　Fax：083-928-1669　E-mail：y-iyeo@mx5.tiki.ne.jp

プログラム
8月4日（土）　開会式／基調講演　講　師：山口県副知事　大泉博子氏
分科会（詳細下記参照）／歓迎交流会
8月5日（日）　次回開催県への引き継ぎ／きらら博参加・見学／解散

【分科会の内容】

1. **インターナショナル・クッキング体験**
山口で出来た「国際交流ランチ」を一緒に料理しましょう。中国、韓国料理など盛りだくさんです。
2. **韓国の伝統芸能～サムルノリを体験しよう**
慶南国楽団の皆さんからの直接の指導により本格的な体験が味わえます。
3. **「ここが変じゃね日本人! in 山口」**
在住の方々と参加者がいろいろなコンテンツで激論を交わします。ご期待ください！
4. **既参加青年による体験スキット（きらら博に出演しよう）**
内閣府主催の青年国際交流事業についての説明とそれぞれの事業で印象に残っている出来事を集め、簡単なスキットにして楽しくわかりやすく「きらら博」で披露しましょう。
5. **郷土の伝統芸能～金魚ちょうちんを作ってみよう**　※別途材料費　1,000 円（当日いただきます）
柳井市特産品の「金魚ちょうちん」を作ろう！
6. **あなたも挑戦～世界の遊び・日本の遊び**
けん玉、おはじき、折り紙からバンブーダンス、ブルアヤム、チョカ、セパタクロウ、ユンノリなど遊びの世界へご案内

平成13年度　内閣府政策統括官（総合企画調整担当）青年国際交流事業

～ボランティアスタッフ募集スケジュールについて～

◆第8回　国際青年育成交流事業（8～10名×14か国　来日）

- 7月17日（火）課題別視察　5名×5コース　募集予定（要英語力）
- 7月18日（水）都内視察　3名×8コース　募集予定
- 7月19日（木）都内視察　3名×14コース　募集予定

◆第28回「東南アジア青年の船」事業（約30名×10か国　来日）

- 9月6日（木）課題別視察　3名×11コース　募集予定（要英語力）

◆第14回「世界青年の船」事業（10～11名×14か国　来日）

- 10月19日（金）　課題別視察　5名×8コース　募集予定（要英語力）

上記3事業ボランティアスタッフをご希望される方は、事務局まで直接電話・FAX・E-mailにてご連絡下さい。詳細をお知らせ致します。
なお、募集頂いた方には事前に行われる（財）青少年国際交流推進センターでの打ち合わせ（事業開始約1ヵ月前を予定）に参加して頂くことになります。
多数のご応募お待ちしています!!

【お問い合わせ先】
〒103－0013
東京都中央区日本橋人形町2－35－14　東京海苔会館6階
（財）青少年国際交流推進センター
TEL：03－3249－0767　　FAX：03－3639－2436
E-mail：hq@iyeo.or.jp
担当：田中・渡辺（ゆり恵）・渡辺（洋介）

マレイシアへ皆で行こう！ *SSEAYP International Travel Network*

==キナバル山（4095.2メートル）とコタキナバル周辺の島めぐり==

「東南アジア青年の船」のマレイシア同窓会が、楽しいエコ・ツーリズムツアーを企画してくれました。キナバル山は東南アジア最高峰の一番高い山。キナバル山のあるサバ州は豊かな熱帯雨林の残る大自然の秘境。コタキナバルはサバ州の中心都市で、海と夕日の美しいマレイシアの東の玄関というごとです。

「東南アジア青年の船」の既参加者の方は、マレイシアの温かいホスピタリティーにもう一度触れてみませんか？「世界青年の船」・「航空機による海外派遣」の参加者の方もこの機会に、変化に富んだ熱帯の自然を訪ねてみませんか? お友達・家族と一緒に是非ご参加ください。

日　　時：平成１３年８月１０日（金）～１５日（水）

参加費用：US$230～（日本からマレイシアまでの航空券は含みません）

- ◆ クアラランプールとコタキナバルの往復の飛行機代
- ◆ マレイシアでの宿泊費と食事
- ◆ 記念Ｔシャツと帽子

キナバル山へ登頂する場合、下記の追加料金が必要です。（１MYR＝約３０円）

- ■ 登頂に関わる費用　MYR２０　　（MYR＝マレイシア・リンギット）
- ■ ガイド料金　　MYR１０
- ■ 参加証明書　　MYR１０

参加申込期限：平成１３年５月３１日（木）

参加ご希望の方は、IYEO 事務局までお問い合わせください。資料及び参加申込書を送付します。
(IYEO 事務局：担当 赤澤美雪、渡辺ゆり恵 hq@iyeo.or.jp TEL03-3249-0767 FAX 03-3639-2436)

SIGA 2001 Thailand（6月21日～24日）

- 現在の申込み状況

４月末現在で４５名の参加申込みがありました。「東南アジア青年の船」参加者の他、「世界青年の船」、「航空機による海外派遣」の既参加青年者からも申込みを多く頂きました。

- 引続き申込みを受付けます

５月２５日（金）まで申込みを受付けます。楽しいプログラムの連続です。ご参加をお待ちしています。

詳細は下記へお願いします。

http://www.geocities.com/bangkok_siga/
http://www.iyeo.or.jp/siga/2001/

お問合せ先：siga@iyeo.or.jp

～リフレッシュ・クルーズ延期のお知らせ～

１月号でお知らせしました１２月のリフレッシュ・クルーズが、「にっぽん丸」のドック入りの日程が延長した関係で実施困難になってしまいました。

すでに何件かのお問い合わせもいただいており、大変申し訳ないことと深くお詫び申し上げます。現在、再度の日程調整を行っておりますので、決定次第お知らせ致します。なお、今年度中の実施の際は、使用する船は「ふじ丸」になります。

〔住所変更届のお願い〕

新年度により就職や転勤などで住所変更をされた方または近々に変わるという方も多くいらっしゃると思います。ぜひとも事務局までご連絡下さい。葉書、メール、ＦＡＸなど記録が残る方法でお知らせいただけると幸いです。連絡の際は、会員番号を記載いただければ旧住所の記載は必要ありません。（必要事項：氏名、会員番号、新住所、電話番号）

編集後記

このマクロコズムが皆さんの手元に届く頃は、内閣府青年国際交流事業の選考試験が行われつつある時期です。また新しい仲間が全国に増えていきます。厳しい社会情勢ですが、そんな時だからこそしっかり世界に目を向けて未来を見すえて積極的でありたいものです。

＊本誌の年間講読をご希望の方は、㈶青少年国際交流推進センターまで葉書又はＦＡＸにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM（マクロコズム） 5月号 Vol.40 2001年5月1日発行（隔月発行）

編　集：マクロコズム編集委員会
発　行：財団法人　青少年国際交流推進センター
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2－35－14
TEL 03－3249－0767
FAX 03－3639－2436
e-mail hq@iyeo.or.jp
URL http://www.iyeo.or.jp

編集協力：内閣府政策統括官（総合企画調整担当）
日本青年国際交流機構
定　　価：198円（本体189円）
印 刷 所：株式会社　絢文社
TEL 03－3959－3960

日本中国青年親善交流（招へい）～2000.11.7～11.26～

日中平和友好条約の締結を記念して、両国の共同事業として昭和54年から開始されました。昨年で22回を数え、30名ずつの相互交流として行われています。中国代表青年は、19日の滞在期間に東京において表敬や課題別視察を行うとともに4県を訪問しました。日本代表青年は、9月から10月に掛けて中国を訪問しています。

▼ 歓迎会より

山形県

▼ 異文化料理交流で餅つき体験

千葉県

地方旅行

長崎県

和歌山県

◀ 木村知事への表敬訪問

◀ 裏千家東京道場にて茶道体験

東京ガスの根岸工場にて ▼

▼ 新宿区立四谷第六小学校

MOPAS

時間によって葉を選び、恋する心をそそぎます。

船旅をこよなく愛した哲学者
ベルジャエルは言っております。
「客をもてなすのは、恋をするのに似ている。
敏感でなければいけないし、また変化も必要だ」
さすがは賢き旅人、巧いことをおっしゃる。
大いにうなずいてしまいます。

と申しますのも、MOPASのクルーズでは、
常にお客様の機微を知り、一日のT・P・Oに合った
おもてなしを心掛けているからです。
たとえば紅茶ひとつをとってみても、
まだ眠気の残る朝には、深いこくのある
《モーニングアールグレイ・ティー》を。
また、ゆったり微睡む午後には、
香りを楽しむ《ヌワラエリヤ》で。
そしてディナーの後のひと時には、
英国女王陛下もお気に入り、《キーマン・ティー》を、と。
それぞれにテイストを変えているのです。
つまり、MOPASは『恋する心でおもてなし』。
これではちょっと言い過ぎでしょうか…。
【海に教えてもらった、海のおもてなし】
海との長い付き合いの中で、
MOPASのクルーズは、
そんなおもてなしの心を守り続けているのです。

※『MOPAS』は商船三井客船の愛称です。

海には海のおもてなし。

MOPASのクルーズ

レジャークルーズのお問合わせはMOPASクルーズデスクへ

商船三井客船

商船三井客船株式会社　〒102-8552 東京都千代田区紀尾井町3-6 秀和紀尾井町パークビル5階
■お問い合わせ、お申し込みはMOPASクルーズデスクへ。フリーダイヤル 0120-791-211

美しい時代へ――東急グループ

行ってらっしゃい、
いい旅へ。

豊富な経験と実績を生かして、いちばんの旅をおつくりします。

大きな感動と、心に残る出会いのために。私たち東急観光は、総合力でお応えします。豊富な商品と旅のプロフェッショナルが、個人旅行から団体旅行まできめ細かく対応。全国網の支店と海外の主要拠点を結ぶ、充実のネットワーク。お客様一人ひとりのご要望と目的にあわせて、旅のプロローグからエピローグまで演出します。あなたにいちばんの満足を。

旅のすべてを知っている東急観光です。

TOKYU TOURIST 豊かな感動のステージへ
東急観光

運輸大臣登録旅行業第38号 ©日本旅行業協会正会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号
http://tour.tokyu.com

マクロコズム　2001年5月号　通巻四十号隔月発行　定価一九八円（本体一八九円）　編集協力：内閣府政策統括官（総合企画調整担当）日本青年国際交流機構